

令和6年度 特色ある道德教育推進校

東庄町立東庄小学校

研究主題

豊かな心の育成を目指す道德教育の在り方

～家庭・地域との連携と「考え、議論する道德」の授業実践を目指して～

取組1 家庭・地域との連携

道德科の授業公開

- ・ 5年度…年度末の授業参観で全学級展開
- ・ 6年度…年間の授業参観で1回は必ず展開



子どもの良いところは、なかなか目と向かって伝えにくいので、
道德の授業を通じて話ができたことは良かったです。
子どものやりたいこと、長所をのびせるよう応援していきたい
と思います。

・ 学年通信で授業の様子を発信

今月の どう解く? 「道德コーナー」

その1
【教材】「けい君の秋田平堤まつり」(教科書「新・みんなの道德3」より)
【テーマ】「伝統を受け継ぐ」
【あらすじ】 秋田の従兄あけの家に遊びに行ったあけは、自分おいて平堤の
縁側に行くけいに面白くない気持ちをもっていった。しかし、けいの縁側
に貴族に似ておむすを見て、あけの気持ちも変化していった。

がんばっているすがすがしい
かっこいいと思いました。
わたしもけい君をおうえん
したいと思いました。わたし
も練習をがんばりたいと
思いました。

かっこいいと思われない
し、勢いを減らしている人にも
なりたいから勢いにき
んかしているのだと思
った。

バスケのチームで、自分
たちの代になったとき、次
の学年の子たちもがんばら
うと思えるように、すごく
真げんにやりたい。

※ 「伝統」という言葉は、3年生にはまだ難しいようでした。夏休み、地区の祭りに参加
したお子さんも多いようです。子供たちの周りには、長い歴史が受け継がれているもの、地域の
人や上級生から引き継いでいく意志などがたくさんあります。そのよききを受け継ぎながら、伝
統をつないでいける人になってほしいと思います。

その2
【教材】「まっかな夕日」(教科書「新・みんなの道德3」より)
【テーマ】「すこいな、自然って」
【あらすじ】 遊びから家に帰ってきたあけは、二階のベランダに居る母に呼ばれる。今ま
で見たことのない大きな夕日があたり一面を真っ赤に染めていた。

東庄町でもきれいな夕日
見たよ。写真をとったよ。

温かい気持ちに
なるな。

空は一つなのに、
いろいろな影や色
があってすこいな。

令和6年度 第2回校内研究会(理論研修)

「家庭・地域と連携した道德教育の在り方」～「シビック・プライド」を育てる～
千葉敬愛学園敬愛大学 教育学部教授 土田 雄一先生



1年生
生活科 昔遊び



2年生
生活科 町探検



3年生
総合 カブ収穫体験



5年生
総合 米作り体験

行事・教科等

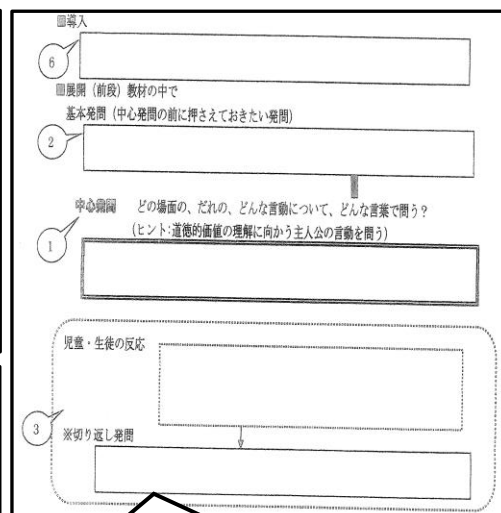
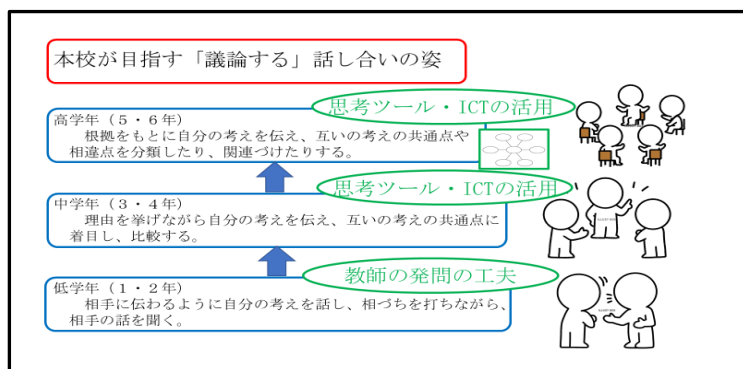
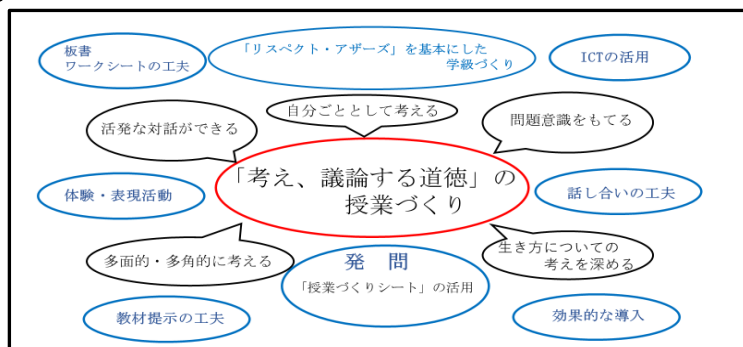
本来の目的



道德的ねらい・振り返り

今あるものを「意識化」する

取組2 「考え、議論する道徳」の授業実践



「道徳授業づくりシート」
指導案検討の際、授業者だけではなく、全職員で取り組み、「考え、議論」する授業を目指した。

主な成果と課題

- 家庭・地域との連携については、保護者には道徳科の授業公開や「道徳科通信」等で、道徳科の授業で行っていることを伝え、家庭でも学んだことを意識したり、児童が取り組めるよう促したりした。それにより、道徳科への保護者の関心が高まった。また、インタビューや手紙等、保護者や地域の人の授業への協力は、児童にとって大変有効であることもわかった。「考え、議論する道徳」については、本校が目指す「議論する」話し合いの姿を定め、その姿を目指して教師の発問を工夫したり、思考ツールを活用したりした。それにより、個人差はあるが、児童が意欲的に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞き、自分の考えを広げ、深めたりしようとする姿が見られるようになった。
- 本校が目指す「議論する」話し合いの姿に近づくため、ICTを効果的に利活用しながら、道徳科だけではなく、他教科・他領域でも「議論する」話し合いを取り入れていく。また、学校行事や他教科の活動で道徳的なねらいや振り返りを意識し、児童が積極的・主体的にかかわる体験や実践を積んでいきたい。

授業実践事例

東庄町立東庄小学校 第4学年3組 道徳学習指導案

1 主題名 きょう土を大切にすること

C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

(教材名「ないものはない」 出典「新版・みんなの道徳4」)

2 指導観

導入では、3年時の学習の様子を写真から想起したり、事前調査の結果を示したりしながら、東庄町の更なる魅力を探っていくという学習課題につなげていく。

展開では、海士町のよさを確認しながら、教材を通して、郷土を愛する気持ちや郷土の「よさ」とは何か等を考えた上で、「東庄町にはどんなよさがあるか」という中心発問につなげていく。学習前から知っていたよさ、学習を通して改めて考えたよさを付箋に書いていき、それをもとにグループで話し合うことで、多面的・多角的に考えられるようにする。さらに、保護者アンケートの結果を提示し、児童よりも長くこの場所に住んでいる人たちの思いを知ることで、東庄町との関わり方の「これまで」や「これから」を考えられるようにする。

終末では、まちの振興を仕事としている役場の方に、まちづくりへの思いや、学習をしている児童の様子を見て感じたこと等を伝えていただく時間を設ける。これにより、自分たちもまちづくりに参画しているのだという自覚や、今後も積極的に関わっていきたいという意欲につなげ、郷土への関心を高めると同時に、自己の生き方についての考えを深められるようにする。

3 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される児童の反応	指導・支援 ○評価の視点
導入	5	1 道徳的価値に対する方向付け ○ 東庄町についての事前調査の結果です。 ・東庄町が好きだという人が多いね。 ・「変わってほしくないもの」や「なくなってしまうと悲しいもの」もあると思うけどな。	・3年時の学習の様子を写真で振り返り、町の魅力を想起しやすいようにする。 ・事前調査の結果を示すことで、東庄町に対する学習前の自身の考え方を捉えられるようにする。 ・気になる部分を確認しながら学習課題につなげていく。
		東庄町の「よさ」って何だろう。	
展開	5	2 教材の提示 ・教材を読み、あらすじを確認する。	・ポスターや写真を提示しながら教材を読み聞かせ、教材への意識付けを図る。
	28 (5)	3 教材「ないものはない」についての話し合い ○ 海士町の人考える、海士町のよさとは何でしょう。 ・きれいな景色 ・イカや崎みかん ・人と人との交流	・海士町のよさ、島の人たちの思いを確認しながら、郷土の「よさ」とはどういうものか、「郷土を大切にする」とはどういうことかを考えられるようにする。
	(20)	◎ 東庄町にはどんなよさがあるでしょう。 ・やっぱり自然が一番かな。緑の多い田舎のほう落ち着くから。 ・やさしく声をかけてくれる地域の人。	・よさ1つにつき1枚の付箋を使い、内容を端的に記すことで、自分の考えを明確にしていく。 ・個人で考えたあと、グループごとに共通点や相違点を見つけながら整理してい

終末	(3)	安心するよね。 ・ポーク&ビアやふれあいまつりなどのイベント。楽しいから。 ・友達との思い出。友達がいるから毎日が楽しいよ。 ○ みんなの家の人、東庄町のよさをどのように考えているのか、アンケートの結果を見てみましょう。 ・祭りに対して、こんなに熱い思いをもっていたなんて知らなかった。 ・母校が閉校してしまって寂しいんだね。東庄小はずっと残ってほしいね。 4 本時の振り返り ・役場の人の話を聞く。 ・学習で考えたことをまとめる。 ・学習の自己評価をする。	くことで、郷土のよさを多面的・多角的に捉えられるようにする。さらに、その後全体に広げることで、様々な考えに触れられるようにする。映像資料参照 ○ 自分の考えを伝えたり、友達の考えに聞き入り、自分の考えと比べたりして、多面的・多角的に考えているかを評価する。 ・保護者アンケートの結果を提示し、長く東庄町に住んでいる人たちの思いを知ること、新たな視点から東庄町のよさに気付けるようにする。映像資料参照 ・役場の人の話を聞くことで、まちの一員であることを自覚すると同時に、自分たちにできるまちづくりを考えるなど、郷土への関心をより高められるようにする。映像資料参照 ○ 郷土愛についての道徳的価値の理解を、自分との関わりで深めているかを評価する。
----	-----	--	--

○ 他の教育活動との関連

- ・千葉県のがた【社会科】
- ・「折り紙」(日本人の知えと心)【道徳科】

4 授業の様子

(1) 板書

グループでの話し合いでは、個人で書いた付箋をもとに、「食べ物」「自然」「イベント」「歴史」などと、分類していった。

(2) 児童の様子

全体での話し合い、保護者アンケートの結果、役場の方の話など受けて、地域のよさについて考えを深めた児童の記述。

☆ 今日の学習で考えたことをまとめよう。

自分たちの町にもたくさん良い所があって、もっと良くしたいという気持ちが新たにできた。

・年いさべつをしないうでみなさんといしょに、より良い町をつくりたい。

今日の学習で考えたことをまとめよう。

日本や世界には、いろいろなところがある。その中で「よさ」があると思った。

東庄町にもいろいろなよさがある。それを「よさ」として、もっとよくなることを考えた。